



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第19号

2022年
9月21日

赤城山フラワートレッキング

一般参加39人が自然満喫

自然保護委員長 木暮 幸弘

2022年5月28日(日) 9:00～15:00

日本山岳会群馬支部は5月28日(日)、自然観察会「赤城山フラワートレッキング」を開いた。昨年7月の「ミヤマシロチョウ観察会」(湯の丸高原)に次いで2回目の公益事業として行ったもので、当日の一般の参加者は39人だった。

参加者の内訳は、50代から70代までが36人と、中高年が大半を占めた。その中であって11歳の小学生と一緒に参加した家族連れが1組だがいたのは、素直にうれしかった。募集告知は群馬支部ホームページや上毛新聞ぱれっと欄などで行った。

観察会は3班に分けて実施。1班13人平均でチーフリーダーはA班根井、B班加藤、C班中山各氏にお願いした。スタッフは全員で15人いたので、各班にサブリーダーと救護担当者を配置した。なお、今回の自然観察会実施にあたり、根井支部長を講師として救急法の講座を開催。星野弘美さんと中村由佳理さんが2回にわたって応急手当などを学んだ。

今年は厳しい冬の寒さと、例年以上の積雪で春の訪れが遅かったためか、期待していたツツジはまだまだこれからという感じだったが、トウゴクミツバ

ツツジやヤマツツジなどがチラホラと咲きはじめ、新緑のさわやかな森

に鮮やかなアクセントを見せていた。また、足元にはフデリンドウやサクラスミレなど小さな花々が咲いているのが確認でき、参加者は心癒やされるトレッキングが楽しめたのではないと思う。なお、小沼と大沼を見下ろすハイキングコース脇では小池事務局長が赤城の成り立ちの説明や岩石クイズなどを実施。オトギの森では木暮が植物や生態の話などを行い、参加者は赤城の自然を学びながらゆったりとしたペースで赤城の山歩きを満喫した。コロナ下ということもあり、スタッフはもちろん、参加者にも登山中以外はマスク着用の徹底をお願いした。参加費は500円(小学生300円)とし、赤城山の自然保護活動推進協議会発行の「覚満淵の花暦」を1人1部ずつ渡した。

今回の観察会では、上毛新聞社のほか前橋市と前橋市教育委員会にも後援を申請。観察会の模様は5月29日付の上毛新聞に記事掲載された。



サクラスミレ



小池事務局長による野外教室



長七郎山への登りから覚満淵、黒檜山を望む

山行報告

花に囲まれた野反湖

野反湖は、もともとあった自然湖を嵩上げた人造湖で、上信越高原国立公園の群馬県と長野県の県境付近標高1500mの高原にあり花と湖面のコントラストが映える絶景スポットとして、毎シーズン多くのハイカーが訪れています。

今回は野反峠（富士見峠）に集合し、野反湖の眺望を眼下に見ながら八間山を目指す自然観察山行です。20人の参加者が2班に分かれ、コロナ対策に留意しつつ動植物を観察しながらゆっくり八間山（1935m）の山頂まで往復します。

登山口から少し上ったコマクサの群生地では、保



護ロープの先にたくさんの花を見ることができました。

涼しい八間山山頂で2班が合流し、ふれあった植物談議に花を咲かせ和気あいあいと早めの昼食を楽しみ、山頂から折り返し野反湖畔にむかいます。湖畔の斜面では満開のニッコウキスゲ大群生が迎えてくれて参加者が顔を黄色く染めていました。

今年は急な梅雨明けが影響してか、例年よりも10

思い出の山

高天原温泉

日本で一番遠い温泉

石垣 光広

「遠い」とか「果て」という言葉に子ども時代から何か異常なほどかき立てられた。大人になってからは日本一、国内初、全国最高といった表現に弱い。たぶん職業病だ。北アルプスにある高天原温泉も最初はどうも文句にひかれた。日本で一番遠い温泉一。

裏銀座縦走路を外れた場所にある。折立登山口から最短で13時間ほどだが、群馬から折立までが遠く、登山口手前の林道も夜間は通れない。で、新穂高温泉か高瀬ダムから入り、鷲羽岳（2924m）直下の三俣山荘か雲ノ平まで一気に距離を稼ぐ。初日はここまでが限界だ。

初めて訪れたのは2015年夏。三俣にテントを張り、翌日軽装で高天原を目指した。経路地の雲ノ平から下る樹林帯は長く、「もう勘弁」と思うころ高天原が現れる。水晶岳（2986m）麓の小さな湿原だ。人の気配がなく夢のような静けさで、一目ぼれした。

温泉は高天原山荘からさらに20分。沢にある野



日本一遠い高天原温泉。鷲羽岳や水晶岳をセットに歩くと距離50km、累積標高5000mほどになる

天風呂は開放感を超えて遮るものが何もなく、もちろん脱衣所もない（控えめな人には囲い付き露天も）。湯につかると、片道2日の疲れも吹き飛んだ。

以来、6年で3度訪れたが毎回、汗を流した後に鷲羽や水晶まで1000m近く登り返し、汗だくになるのが難点。泊まればいいのだがテン場がない。次こそ宿泊して黒部源流でイワナを釣り、温泉に入ってビールを飲む。50代になったので、そんな落ち着いた山旅をしたい。



キスゲ咲く野反湖畔

日ほど花のピークが早まったようでニッコウキスゲ、コマクサが見頃という絶好のタイミングでした。コロナ鬱が蔓延する昨今、そのうっぶんを晴らすかのようなたくさんの花々に囲まれた爽快な山行となりました。
(加藤 博)

入会初山行 八間山

入会后、初の山行だったため、前日から緊張していましたが、当日はお天気にも登山仲間にも恵まれ、野反湖の青さ、山々の深緑、そしてノゾリキスゲ群生の黄色と、目に鮮やかな景色が広がり、「八間山、登って良かった!」と、思える登山でした。

今回の山行では、身体のケアから安全に歩くための歩行術まで実践していただき、個人の山行では疎かになりがちですが、改めて大切な術だと体感いたしました。

今後も、安全に登山することを心掛け、山を親しみたいと思います。

(浦野有紀子)

夏合宿 上高地集中

群馬支部恒例の夏合宿「山研」泊による上高地集中。参加者11人が、乗鞍岳班、蝶ヶ岳班、奥穂高岳班、前穂高岳班、十石山班の5班に分かれて開催。7月23日、各班とも予定した時刻には山研に集合し、お互いの無事下山を祝った。

大満足の前穂高ピストン

7月23日、小雨の沢渡を朝一番のバスでスタート。参加者は横、田中の2人。買い出し荷物を山研にデポし、天気回復を祈りながら6:10合羽を着て上高地を歩き出す。汗と小雨でグッショリになりな



前穂高への岩場

がらも8:10岳沢小屋に到着。

ここからは、合羽を脱いで重太郎新道にアタック。急登に息が上がるも、間近で輝く花々に癒やされながら岩尾根を進む。すると奥穂高岳から下山途中の田村さんと



重太郎新道から明神の岩稜を望む

出会う。お互いの無事を誓って別れた。振り返ると田村さんは、軽快なフットワークで滑るように下山していった。しばらくすると青空が見え隠れするようになり、目の前には雪溪の残る明神岳が現れた。やっと北アルプスの雰囲気味が味えた。

10:45紀美子平を出発。上下の間隔を空け落石に注意しながら山頂を目指す。11:20無事登頂。山頂での絶景はお預けとなったが、道中で京都のKさん、新潟のSさんと休憩中に会話をしたのも良い思い出となった。大満足の前穂高岳ピストンであった。

(田中 規王)

神々しいピークに出会う 奥穂高

今回の山研集中は、前日の22日早朝から上高地に入り、蝶ヶ岳ヒュッテに行く清水・星野会員と横尾まで同行した。そこからいよいよ登山道。2時間半で涸沢ヒュッテに到着。その後の2時間半が辛かった。穂高岳山荘到着が14時45分、60過ぎのオジサンにしてはまあまあかな。

翌朝は、奥穂高岳を乗越して、紀美子平から重太郎新道～岳沢小屋～そして山研、およそ6時間かかってしまった。歩き始めからずっと雨の中だったため、時々見えたピークの数々が神々しく思えた。重太郎新道は結構ハード。両手も使わなければ降りられない。岳沢小屋で10分ほど休憩の後、平坦なはずの上高地行きの残り2時間が長くつらい道のりだった。

ようやく見えた山研の看板。ほっとしました。その後シャワーを浴びて、これから参集するであろう10人を待つ、余裕のよっちゃん気分をタップリ味わいました。



奥穂高岳山頂



紀美子平

(田村 和彦)

心洗われる花の乗鞍岳

7月22日（金）乗鞍岳グループ5人は、乗鞍高原観光センターからタクシーで位ヶ原山荘まで上がり、10時30分に登山道へ入った。私にとっては初の3000m級登山。雨予報に向けて準備を進めた。しかし不安に反して、陽射しのなか肩の小屋を目指すことができた。

沢沿いを歩き始める。早速ミヤマキンバイ、コオニユリ、コバイケイソウ等、色鮮やかな花々が出迎えてくれる。平日のためか、すれ違う登山者もなく雪解けの清流の脇を、時に渡渉しながら進んで行く。初めて見るキヌガサソウの白く高貴な美しさには、心洗われる気持ちになった。

先へ行くと大雪渓。スキーヤーを横目に歩を進める。ここからはチングルマのお花畑やキバナシャクナゲ、イワツメクサといった高山植物が楽しませてくれる。

肩の小屋に14時到着。予想以上の寒さで、夕方から雨が降り始める。翌日はご来光を拝むため、4時から乗鞍主峰剣ヶ峰にむかう予定だったが、雨が上がらず断念。8時から霧雨のなか頂上を目指す。剣



大雪渓を目指して

キヌガサソウ



ヶ峰からは、日本百名山のうち40座が見えるらしいが、今回はガスの中。その分、翌日上高地から見た穂高連峰の美しさは格別だった！同行の皆様、大変お世話になりました。(中村由佳理)

急登続く十石山

十石山は信州と飛騨を結ぶ安房峠から乗鞍岳に続く尾根上にある、標高2525mの少しマイナーな山です。石(コク)は尺貫法の容量の単位で、一石およそ2.5俵、成人が1年間に食べるお米の量にほぼ等しいとされています。十石山の山名の由来は不明です。

登山口は白骨温泉から、かつての上高地乗鞍スーパー林道を約1.3km登った所にありますが、小さな案内板があるだけで見過ごさないよう注意が必要です。付近の路肩に数台駐車可能です。なお、スーパー林道は登山口のすぐ先で閉鎖されています。

7月23日朝、登山開始。10分ほどでスーパー林道からの道(廃道)と合流し、左(西)に折れると急登が始まり、湯沢ノ平と呼ばれる緩傾斜地まで続き



チングルマとイワカガミ

ます。

湯沢ノ平でホッとするのもつかの間、山頂から東に延びる尾根に入ると、雨裂の溝と笹の間の急登が続きます。それに2400m付近でシラビソの低木が出て来るまで展望もありません。

しかしこれらのマイナス面を補うように、稜線直下には有志により維持されているシッカリした避難小屋があり、すぐ下には、お花畑が広がります。小屋から山頂までは数分です。

稜線からは北アルプスや乗鞍岳の大展望が広がるはずでしたが、当日は風雨で何も見えませんでした。

(中山 達也)

新入会員紹介

岩崎 茂雄

山好きで、古道への関心、支部長と高校同級生のご縁より、入会致しました。大学時代、山歩きの会で、槍、奥穂など。司法浪人時代、奥多摩、奥秩父の山々を。弁護士後は、県内法曹三者の会を作り、苗場、鬼怒沼などを歩きました。また、尾瀬の自然を守る会で保護活動に取り組みました。自宅新築の折、拙庭に山の景色を作ろうと思い、カタクリなどの山野草を栽培しております。足手まといにならぬよう、頑張りますので、よろしく願い致します。

清水 信三

山は大学でワンゲル部に入部してからで、50年前にキスリングで2週間かけて北や南アルプスを縦走。朝日や飯豊の縦走も楽しく記憶に残ります。その後は尾瀬など日帰りや一泊等の山行をしていました。さて、古道調査ですが興味あります。入部すぐに大清水からの道で岩も丸くなり多くの人の歩みを感じ感動しました。

中村由佳理

公民館の山歩き教室に参加し、根井支部長にお世話になったご縁で、入会させていただきました。

これまでの支部山行で、初心者はスタートで出遅れないことが大切だと感じましたので、準備を整え、心に余裕を持って参加できるよう努力します。レベルが合えば、なるべく支部行事に参加したいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

支部山行

残雪期の至仏山

令和4年度第1回支部山行は、道路閉鎖が解除となりゴールデンウィークまでの限定コース「残雪期の至仏山」で、アイゼンを使用しての雪上登降、滑落防止訓練を目的に、田中山行委員長、榎、星野、田村、清水、川端、萩原（公）の7人で4月29日「昭和の日」に実施した。

当日は、午前7時に片品村戸倉のロッジ長蔵前に集合した頃には雨模様となり、雨支度をして鳩待峠に向かう。

鳩待峠駐車場の雪の壁を見て出発。この冬は積雪が多かったが直近の暖気で雪融けが進み、締まっておらず、間もなくアイゼン装着。樹林帯では一瞬青空も見えたが、ほとんどが霧状態。途中休憩もそこに急ぎ、約2時間でオヤマ沢田代、小至仏山は雪上の利点でトラバース、夏タイムに近い約3時間で至仏山頂に到着したが、強風のため、記念撮影だけで小至仏山の窪地まで下山し昼食休憩。

滑落停止訓練も中止し、雨雲と競走で下山した。

鳩待峠で帰りの車に乗り込むと同時に雨が降り出しましたが、全員無事に下山できた。

2228mの至仏山は、新潟からの風で天候が悪化することも多く、今年も遭難死者が出た。

天候不順対応の訓練ができた第1回山行でした。
(萩原 公平)

眺望抜群の浅間隠山

5月15日、浅間隠山（1757m）の支部山行に参加した。東吾妻や中之条からは、この山にさえぎられて浅間山が見えないことからこの名がついた。山頂部に二つの峰があり別名「矢筈（やはず）山」。



浅間隠山から望む浅間山

山行には、上川淵公民館のトレッキングサークル0のメンバーも同行。午前8時、二度上峠の登山口から新緑を楽しみながらゆっくりペースで登

る。

天気恵まれ、山頂は見渡す限りの眺望。正面には雪渓が残る浅間山がど



トレッキングサークルのメンバーと記念写真

っしりとすそ野を広げ、雪をかぶった上州武尊、谷川連峰、燧岳、至仏山などの山々が見える。東吾妻町からの登山口から登った一行と山頂で合流し、ランチタイムを楽しんだ。

下山した別れ際、八木原園明さんが「日本人で初めてアルプスに登った栗本鋤雲（じょうん）の像が倉淵の東善寺にあるよ」と教えてくれた。帰路、寺に立ち寄ると小栗上野介の墓碑の隣に、いかつい顔をした胸像があった。幕臣だった鋤雲は小栗と親しく、ともに幕末の日本近代化に力を尽くした。慶応3年（1867年）、パリ万博でフランスに渡った際にアルプスに足を踏み入れたという。（萩原 哲）

岩場が続く蓼科山

6月18日（土）すずらん峠駐車場8時集合予定で蓼科山ピストン登山に行ってきました。参加者は、前田・西田・清水・川端・田中・榎・田村の7人でした。皆さん遠足のワクワク感一杯だったのか、既に15分前には集合してしまいました。よって、7時55分に出発となりました。

最初は笹原をゆるゆる登る感じでしたが、だんだん本性を現す岩登りコース。ちょっと足に来ているメンバーもいましたが、どんどん登って行きました。頂上は至る所穴だらけの岩、岩。休憩する際も気が抜けません。蓼科山頂ヒュッテの美味しい軽食に目もくれず、12時には下山開始。曇天のため、あまり景色は望めませんでした。カップ不要で登り降りでき



岩だらけの蓼科山頂

ましたから、良しとしましょう。間近には色とりどりの花々が咲き競い、名前を思い出しながら、シャッター押しながら、ずっと話しながら、楽しい山行となりました。
(田村 和彦)

山のファーストエイド講習

7月2日(土) 東京都池袋みらい館大明

前々から登山中にケガをした場合に、応急手当の知識が自分にあった方が良く思っていたので今回の講習に参加することにしました。

当日は座学を行い、実技を実践するというのを傷病の事例ごとに行っていくという感じで進み、三角巾、伸縮包帯の使い方などを学びました。

講習を受けて一番印象に残ったのは、講師が「一番のファーストエイドは登山中ケガをしないこと。そのために自分の技量に合った無理のない計画を立てること」と言っていたことです。登山中に大きな骨(骨盤や大腿骨)を骨折した場合、骨折から4時間で約1~2ℓの出血を伴います。人間は1.5~2ℓの血液を失うと生命の危機に陥ります。山中で骨折をして救助を要請し、病院まで搬送される時間を考え処置までを考えれば「ケガ

をしないこと」というのは納得であると思います。

実際に役立ちそうなこととして、登山には必ずペットボトルの水を1本持っていくというのもありました。これは、ケガをした場合大出血を伴うので患部を確認するためにも、また緊急時の飲用としても使えるためです。その際、キャップの中心に穴をあけると水を強く当てることで汚れを落としやすいそうです。

登山中のファーストエイドと言っても症状や状態によって処置や対応が様々にあり、この講習では本当に触りだけといった感じではあったが有益な講習でした。自分的には応急手当の知識を求めていましたが、それよりもケガのリスクを回避するというのを強く意識させられた1日でした。

(榎 孝浩)



山の日イベントin谷川岳

2022年8月11日(祝・木) 9:30~14:30

谷川岳エコツーリズム推進協議会、群馬県山岳団体連絡協議会主催の「山の日イベントin谷川岳」が山の日8月11日(木)、みなかみ町の谷川岳周辺で開かれた。山の日制定を記念してスタートしたこのイベントも、コロナ禍の影響で開催されるのは実に3年ぶり。内容も一部リニューアルして実施された。

コースは健脚向き2コースと初級者向き1コースの計3コースが設定され、このうち日本山岳会群馬支部は初級者向きの「みなかみスイーツと谷川岳の自然を満喫」を担当した。コースは谷川岳インフォメーションセンターと一ノ倉沢までの旧道の往復。「沢ごとにスイーツ!?」という甘い誘惑があったせいか、受付開始からわずか2時間で定員(25人)に達する人気ぶりだったらしい。

イベントはスタッフ9人で対応した。参加者をA、B2班に分けて、往路と復路で解説を入れ替えた。地質を事務局長の小池さん、植生全般を木暮が担当した。今回は、ほぼ平らな舗装路の往復ということ



沢ごとにスイーツが配られた

目的地の一ノ倉沢まであと一息



もあり、どうすれば参加者を飽きさせないでいられるか考えた結果、指定した自然物を歩きながら探してもらって「フィールドビンゴ」をすることにした。「雪」や「ブナの実」といった9つのワードをタテ3ヨコ3、計9つのマスに記入した用紙を配布。見つけたら鉛筆で丸を付けていってもらった。

当日は晴れたり曇ったりのまぜまぜのトレッキング日和。谷川岳も山頂近くは雲に覆われていたが、険しい岩肌や雪渓ははっきりと確認することができた。参加者は「氷河のといき」で涼しい風を体感したり、スイーツを楽しんだり、有意義な一日を過ごすことができたのではないかと思う。ご協力いただいたスタッフのみなさん、ありがとうございました。

(自然保護委員長 木暮 幸弘)

群馬の藪山 ⑮

中山 達也

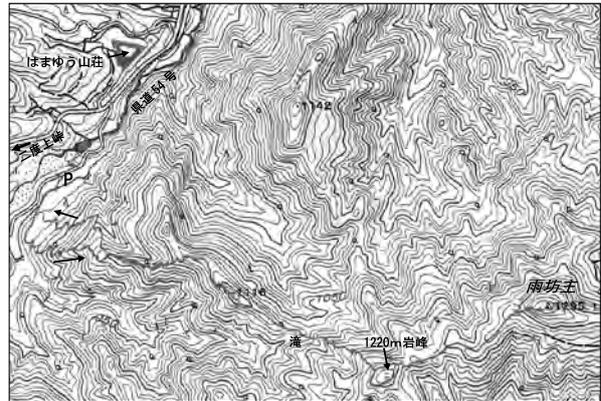
あまんぼうず
【雨坊主】(1295 m) 高崎市倉渕町川浦
2007年6月中旬 2.5万図 浅間隠山

雨坊主は高崎市「はまゆう山荘」の南東約1.6km(水平)にある1295.1m峰で地図に山名の記載はない。アプローチは、はまゆう山荘の位置で分かると思う。

2007年当時は「三洋の森」として整備され、山頂まで道があったが最近のネットの情報では道はほぼ消滅しているらしい。少し古いが、こんな山もあるということで紹介する。

はまゆう山荘前から南側のダートの林道に入ると300m程で「三洋の森」の看板と駐車スペースがあった(P)。歩き出して4、5分登ると分岐になり、どちらの道を行っても上で合流するようで角落天望コースと書かれた右の道に入る。九十九折りで高度を上げて行くと1000m付近で道が合流した(矢印は登り下り)。1080m付近で主稜線に出るとすぐ1116m峰に着く。

1116m峰から北側が切れ落ちた痩せ尾根を下りコルに出ると両側にほとんど水の無い滝がある。1220m岩峰は右(南)から巻くように超え、雨坊主から南西に延びる尾根に出る。木の間から三角錐の雨坊主が



(注) ネット情報では登山道はほぼ消滅しているらしい。最新情報を確認してほしい。地図、コンパス(GPS)必携。

見えた。

最後、木や根を掴みながら山頂に向かうと直下に雨宿りができそうな岩屋があった。これを左から回り込むように登ると東西に広い山頂に出る。登り上げた西の端が一番高く石の祠があり、二等三角点は東の少し低い所に頭だけ出していた。展望は北西側が少し開け浅間隠山が見える。

登り1時間30分～1時間45分。角落山や剣の峰と合わせ1周するのも良いかもしれない。

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】…………… (2022年7月)

- 谷川岳山開き(7/3)
- 八間山 自然観察会(7/9)
- 支部報18号発行(7/14)
- 支部山行 夏山合宿(上高地集中)(7/22～24 上高地山岳研究所)
- 支部例会(7/27 Zoom)
- 支部報編集会議(7/29 エムサポ会議室)

〈8月〉

- 山の日イベント in 谷川岳下見(8/6)
- 山の日イベント in 谷川岳(8/11)
- 22年度座学第1回(8/23 Zoom・ガイダンスと安全登山の基本)
- 支部役員会(8/26)

〈9月〉

- 支部山行 四阿山(9/11)
- 日本山岳会指導者養成講習会(9/17・18)
- 支部例会(9/21)
- 22年度座学第2回(9/27 スマホ活用法)

【今後の主な予定】……………

〈10月〉

- 支部山行 尾瀬合宿(10/1 ロッジ長蔵 至仏山・笠ヶ岳・尾瀬沼)

- 谷川岳慰霊祭・閉山式(10/2)
- 支部自然観察会 玉原(10/15)
- 支部役員会(10/19)
- 山フェスタ(10/22・23 ビエント高崎問屋街センター)
- 岐阜支部創立50周年記念式典・祝賀会(10/23・24 岐阜高山(支部長出席))
- 22年度座学第3回(10/25)
- 県民登山(10/30 岳連)
- 〈11月〉
- 支部山行 妙義山(11/6)
- 支部例会(11/16)
- 関東四支部懇談会(11/26・27 ワシントンホテルプラザ高崎)
- 〈12月〉
- 日本山岳会晩餐会(12/3 東京・京王プラザホテル)

【新入会員】……………

加藤 倫子

日本山岳会群馬支部報 第19号 2022年9月21日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部
〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方)
<https://shibu.jac1.or.jp/gunma/>

発行者：根井 康雄 編集者：小池 千秋・萩原 哲
印刷：上武印刷株式会社